


シュローダー グローバル市場見通し

2018年
9月

マルチアセット運用チームによる各金融市場の月次見通し

見通しの表示：++強気、+やや強気、0中立、-やや弱気、--弱気
矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
貿易摩擦の動向が、株式の売り圧力となる可能性もありますが、同時に株式に対する投資機会も見いだせると考えています。このため、中立の見通しを維持しています。	総じて底堅い経済環境が背景となり、金利上昇が想定されるため、やや弱気の見通しを維持しています。但し、一部に景気の弱含みも見られることから、動向を注視する必要があると考えます。	社債のスプレッド（利回り格差）は、緩やかに拡大しており、今後も継続すると考えられます。また、企業のファンダメンタルズ（基礎的条件）からも、レバレッジの上昇が散見されることから、やや弱気の見通しを継続します。	世界的に良好な経済環境がコモディティ需要の支援材料になると考えられます。また、複数の商品に見られる需給バランスのひっ迫が、価格の上昇圧力となると見えています。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 底堅い米国景気や好調な企業業績が下支えすると見られるため、見通しをやや強気で維持しています。更に、自社株買い等の株主還元策の増加も、米国株式の支援材料になると考えられます。
	欧州	 貿易摩擦問題や欧州中央銀行(ECB)による金融引き締め等の懸念材料が散見されるため、見通しを中立で維持しています。
	日本	 バリュエーション（価値評価）は魅力的な水準にある一方、一部の経済指標が弱含んでおり、今後の景気減速する可能性もあると判断されるため、見通しを中立で維持しています。
	アジア太平洋（除く日本）	 足元モメンタム（相場の勢い）の低下が顕在化している一方、バリュエーションの観点では割安な水準にあると判断されるため、中立の見通しを維持しています。
	新興国	 中国を始め、新興国株式市場のモメンタムが低下している一方、バリュエーションの観点での魅力度が高まっていると判断し、やや強気の見通しを維持します。




2018年
9月




シュロダー グローバル市場見通し

資産クラス	分類		見通し
国債	米国		米国債の発行増加により需給が緩んでいることや、バリュエーションの観点で依然割高感があること等を勘案すると、やや弱気の見通しを継続します。
	欧州 (ドイツ国債)		バリュエーションの観点で割高な水準にあると判断しています。欧州中央銀行(ECB)が量的緩和の縮小を進める中、今後の金利動向を注視する必要があると考えています。
	新興国 (米ドル建て)		新興国内でも格差があるものの、総じて企業収益が拡大基調にあることから、新興国社債を新興国国債に比べて選好しています。
	新興国 (現地通貨建て)		景気のリスク要因が散見されることから動向を注視しつつ、見通しを中立で維持しています。バリュエーションが改善しているものの、見通しの引き上げには、もう一段の不透明感の払しょくが待たれます。
	インフレ連動債		季節要因等による短期的な下押し圧力も想定されますが、中期的には物価上昇圧力が高まると見られるため、インフレ連動債についてはやや強気の見方を維持しています。
投資適格社債	米国		一部企業ではレバレッジの上昇等のファンダメンタルズの悪化が注視されるため、やや弱気の見通しを維持しています。
	欧州		欧州企業の財務は総じて健全であると捉えていますが、M&A（合併・買収）活動の活発化が見られる等、サイクルの後期に差し掛かっていると捉えており、やや弱気の見通しを維持します。
ハイイールド社債	米国	 ↓	バリュエーションの観点で割高感があり、今後の脆弱性が注視される中、ハイイールド社債への確信度がこれまでより低下したため、見通しをやや弱気へと引き下げています。
	欧州		欧州では政治的リスクが継続しており、スプレッドの縮小余地が限定的となる可能性が高いため、やや弱気の見通しを維持しています。

シュローダー グローバル市場見通し

2018年
9月

資産クラス	分類	見通し	
コモディティ (商品先物)	エネルギー		原油については、世界的な在庫水準が低下していることに加え、石油輸出国機構（OPEC）の一部の国からの供給懸念が、価格の押し上げ材料になると考えられるため、やや強気の見通しを維持しています。
	金		価格モメンタムの悪化や、足元の米5年債の実質金利の上昇（金価格は実質金利との逆の相関関係があるとの見方から）を勘案し、見通しをやや弱気へと引き下げています。
	産業用金属		世界的な貿易摩擦問題を背景に産業用金属は売られており、価格には割安感があると見ています。総じて底堅い経済環境や、中国のインフラ投資の拡大に伴う需要増加が、価格を下支えすると見込まれます。

資産クラス	分類	見通し	
通貨	米ドル		米ドルには割高感があると考えています。一方、米国以外の国・地域の景気減速や政治的リスクの上昇等が見られた場合、米ドルの押し上げ要因になると想定しています。
	ユーロ		欧州では、域内の政治的リスクなどの懸念が顕在化しているため、見通しをやや弱気へと引き下げています。
	日本円		日本銀行は、これまでの超緩和的な金融政策の調整を余儀なくされると見られます。また、海外経済が弱含んだ場合、安全通貨としての日本円の選好が強まると見込まれるため、見通しをやや強気へと引き上げています。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダーplcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号
 加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

CMP00359